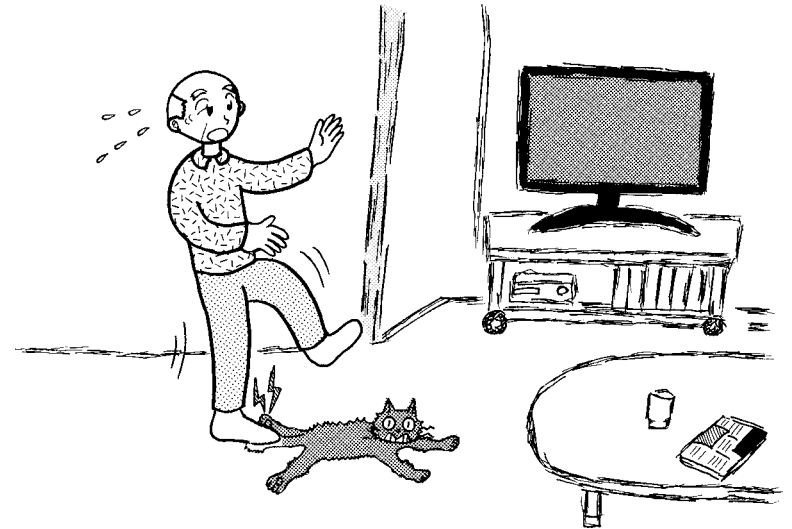


## 転倒予防のための高齢者の歩行動作評価

研究代表者 金沢大学 出村 慎一

高齢者の転倒は、手首、腕や足の付け根の骨折を起こすことが多く、また、骨折した後では転倒が怖くなり日常生活に大変な不安を与えます。この論文は、転倒予防のための高齢者の歩行動作評価システムを開発することを目的としています。実験は、普通の歩行や転倒を引き起こすような条件で歩く動作の詳細について歩行分析計を用いて行われました。歩行動作は目からの情報が最も大切であり、実験はそれを制御する条件（ゴーグル装着）と直線ライン上をはみ出さないように歩く条件を設定しています。目の衰えは、障害物の高さや状態を把握することが難しくなり、片方の足で身体を支える時間が延びることから、ふらつくことが多くなり、特に高齢者では、わずかな段差や何かをまたぐ時に不安定になり転倒につながることを確認されました。また、直線を歩くことにしても、高齢者の場合はバランスを崩すことが多く、歩行能力が落ちている人たちは転倒する可能性が高いことが示されています。これらの結果は、歩行動作能力を評価するシステムを作成する上で大変重要なものになっています。



高齢者では、目の衰えが障害物の把握を難しくし、転倒につながるようだ

